

奥会津に若者を呼び込むデザインツール

グラフィック分野 高橋ゼミ A2201705 大関美咲 a2201725 宮原亜由香 a2201730 渡部茜

研究の背景

奥会津は全国的に見ても人口が少なく、少子高齢化が進んでいる地域である。特に金山町は高齢化が顕著であり、世界一高齢化が進んでいる町としても考えられる。しかし、2021 年度中に只見線の完全復旧が決定し、奥会津に訪れる交流人口が増える兆しが見えた。そのため只見線の利用客と金山町へ訪れる人が増加するのではないかと考えた。そこで私たちは地域の活性化と発展に重点を置き、奥会津の魅力を発信するグラフィックデザインを用いて、若者を対象とした PR 活動を行っていきたいと考える。

研究の目的

上記の問題を解決するとともに、外からの若者の交流人口を増やすことを目標とする。そこで私たちはグラフィックデザインを通して、特に若者が奥会津や只見線に興味を持ち、訪れてくれるようなツールを制作していきたいと考えた。

計画(研究のプロセス)

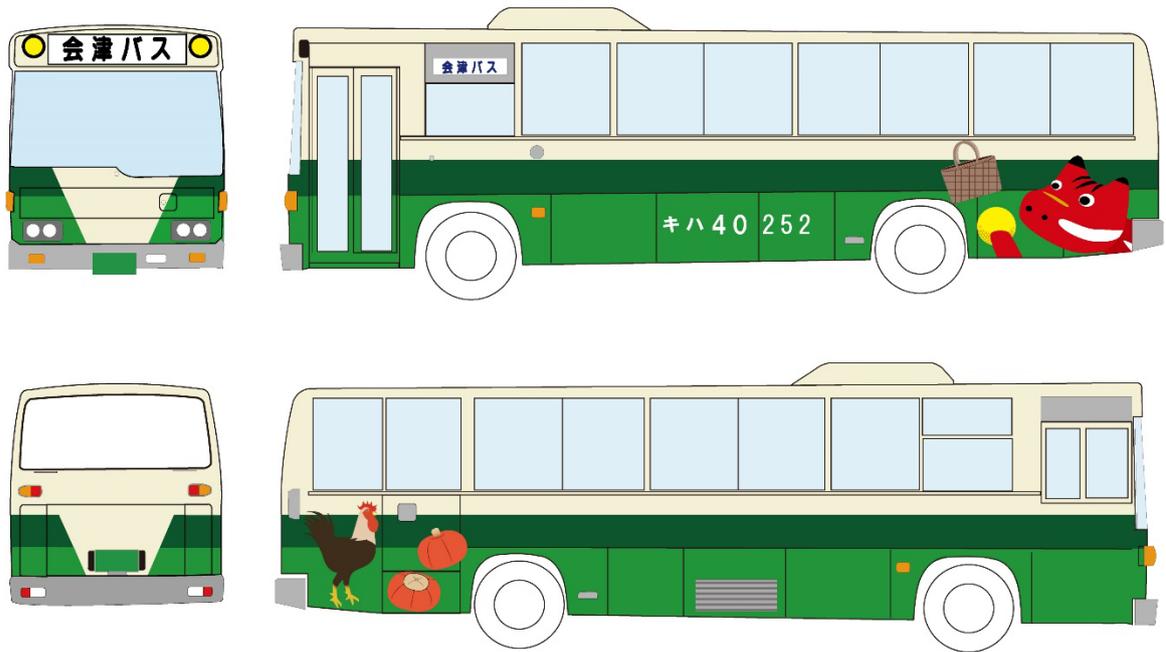
奥会津の現地調査や大学間連携によるリサーチと、実際に制作しながら地域課題に取り組むデザインワークの2つのアプローチで研究をすすめていった。また、9月から活動を開始した各大学との意見交換会で他県の大学生の視点からみたイメージやどんなものがあれば奥会津を発展できるかなどの意見を聞くことができた。また、現地調査の中で地元住民や町外の高校生にマップについての意見を頂き、最終成果物の改善を行うことができた。



成果物(完成作品)

●会津バスラッピング

会津乗合自動車様と連携し、バスのラッピングデザインをした。制作するにあたり只見線のカラーリングだけでは他社のバスに似通ってしまうため、奥会津の特産品のイラストも用いた。市内も走るバスなので、奥会津町地域の人にも興味関心を持ってもらえたと思う。



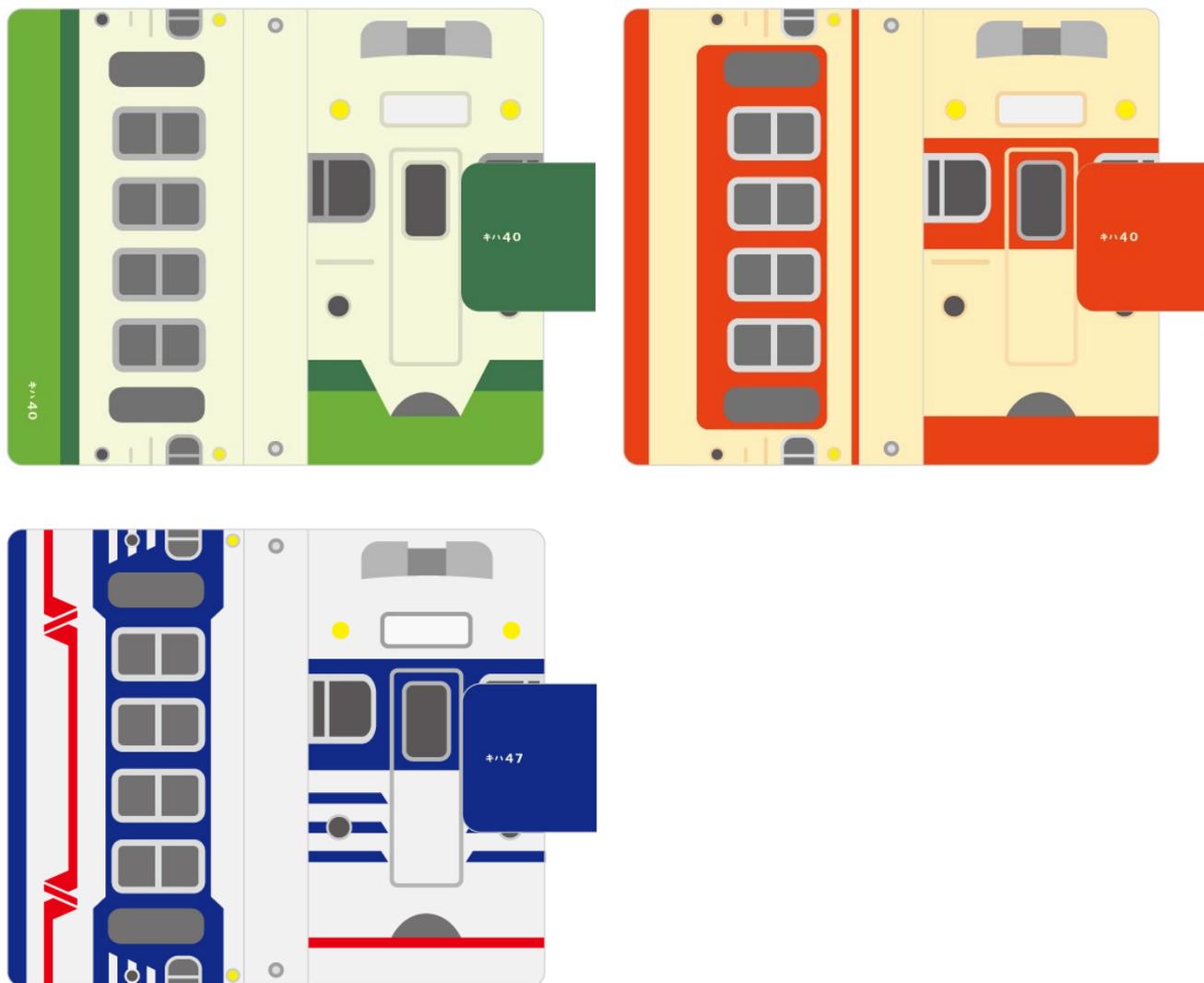
●つどいの場このかぜ

金山町小栗山にオープンした空き家を活用した交流施設「つどいの場 このかぜ」のロゴマークをデザインした。風車をモチーフに、地元の方々に愛されるロゴを制作。高年層だけではなく、若年層の方々にも見てもらえるような可愛いデザインを目指した。



●スマホカバー

株式会社 NSC(エヌ・エス・シー)様と連携し、JR 只見線復興応援プロジェクトの一環でスマホカバーのデザインを行った。既存のスマホカバーのデザインが写真を使用しているため、イラストを用いたデザインにすることが決定した。若い人が興味を持ち、性別関係なく使用できるような只見線のスマホカバーを制作した。クラウドファンディングを通じて、実際に商品化される。



●奥会津金山町マップ

奥会津復興センターと連携し、2021 年の只見線の完全復旧に向けて若者をターゲットとしたパンフレットを制作した。昨年、金山町に上横田共同住宅がオープンし、大学生を中心とした若い世代がセミナーハウスとして使用することが考えられる。そのため、金山町を知ってもらうためのツールを制作することで只見線の利用客と金山町の交流人口を増やす貢献ができると考えた。

